

授業科目名		看護展開論Ⅰ (ナーシングプロセス)		担当教員	◎有家香、休波茂子
必修	開講年次：2年前期	単位：2単位	授業形態：講義 30 時間		

【授業概要】

看護を計画的に立案、実施、評価し、看護の質の向上をはかるため、看護過程について学ぶ。看護診断、看護介入分類、看護結果分類、中範囲理論についての理解を深める。また、看護過程において重要な介入の手段である教育方法について探究する。

【授業目的・目標】

1. 看護実践を計画的に立案、実施、評価し、看護の質向上を図る為、看護過程の基礎的知識を理解し、それを応用した実践能力を身に付ける。
2. 看護の教育的関わりと、看護指導を行う為の基礎的理論と技法を学修する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--|---------|
| [01] 看護過程の概要・構造、問題解決過程としての看護過程 | (休波) |
| [02] 看護過程に必要な能力、看護過程への看護理論の応用 | (休波) |
| [03] 看護過程と理論：ヘンダーソン看護論 | (休波) |
| [04] 看護過程と理論：ロイ看護モデル、オレム看護論 | (休波) |
| [05] 看護診断、看護成果・介入分類、看護診断と中範囲理論 | (休波) |
| [06] 看護過程のステップ、看護アセスメントの枠組み | (有家) |
| [07] アセスメントとは、データ収集の方法 | (有家) |
| [08] 看護上の問題の明確化 | (有家) |
| [09] 計画、実施、評価 | (有家) |
| [10] アセスメント、看護上の問題の明確化、目標及び計画立案の実際 | (有家) |
| [11] 看護過程と看護記録：看護記録とは、看護記録の種類、記録システムの型 | (有家) |
| [12] 看護過程と看護記録：電子カルテの実際 | (有家) |
| [13] 看護過程の実際－グループ討議（分析：情報の分類と整理） | (有家・休波) |
| [14] 看護過程の実際－グループ討議（分析：解釈と判断） | (有家・休波) |
| [15] 看護過程の実際－グループ討議（統合：問題・原因・データ不足） | (有家・休波) |

【教科書】

指定なし

【参考書】

1. 渡邊トシ子編集（2011）ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第3版，NOUVELLE HIROKAWA
2. 黒田裕子編集（1998）事例で学ぶ看護過程実践マスター，日総研
3. 松木光子編集、休波茂子他（2004）看護診断・実践・評価の実際，南江堂
4. 松木光子編集、休波茂子他（2004）ロイ看護モデルを使った看護の実際第2版，NOUVELLEHIROKAWA

【評価方法・評価基準】

筆記試験：70%、課題レポート×5回：20%、グループ討議及び記録：10%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された事前課題の記述を行うこと。

事後学習：講義資料をもとに学習内容の復習、課題の記述を行うこと。

【教育目標との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについては授業中に傾向について示しフィードバックを行う。グループ討議やその記録については評価し看護展開論Ⅱ開始時に返却する。

【備考】

6月から始まる看護展開論Ⅱ（ヘルスアセスメント）と関連が深く、また全ての看護領域における看護実践の方法論として用いられるための学習を積み重ねていけるように自ら取り組むこと。